日産自動車、欧州で新型商用車「Townstar」を公開

日産自動車株式会社　2021年09月28日

日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市西区、社長：内田 誠）は、欧州市場の新型の小型商用車（LCV）戦略の一環として、「Nissan Townstar」を公開しました。

「Townstar」は、事業構造改革「Nissan NEXT」に基づいて導入される最新のモデルで、「NV250」と「e-NV200」の後継モデルとして、今後、欧州市場に投入されます。また、同市場ではNV400とNV300の後継モデルとして「Interstar」と「Primastar」も今後導入予定で、より充実したLCVのラインアップを提供します。

新型「Townstar」には、EVとガソリン車があり、ともにバンとワゴンの設定があります。EVモデルは、44kWhのバッテリーを搭載し、最新のエネルギーマネジメントシステムとバッテリー冷却システムを組み合わせ、航続距離285km（WLTP複合サイクルを前提とした社内測定値）、最大トルク245Nmを実現します。ガソリン車は、現行の排出ガス規制であるEuro 6dに適合した1.3リッターエンジンを搭載し、最高出力130PS、最大トルク240Nmを発生します。

和のテイストを取り入れた印象的なデザイン

新型「Townstar」は、アライアンスCMF-Cプラットフォームをベースに、品質と機能性を徹底的に追求しました。また、欧州で販売される車種として初めて、日産の新しいブランドロゴを採用しています。

EVモデルには、特徴的なLEDヘッドランプや、組子模様と斬新なVモーションデザインが組み合わされ、空力に優れたフロントシールドなど、「日産アリア」のエクステリアの要素が受け継がれています。

ガソリン車は、織り模様のグリルを採用することで、シャープでダイナミックな印象を与えています。フロントのエアカーテンは、フロントバンパーや前輪周りの空気の流れを最適化し、空気抵抗を低減することで燃費を向上させます。

ワゴンの室内空間は、洗練されたシートやドアトリム、モダンなセンターコンソールやインストルメントパネルを採用し、快適な乗車体験を提供します。バンは、多機能で便利な荷室を求めるお客さまのニーズにお応えしま

す。

最先端の安全性とコネクティビティ

多様なニーズに対応するため、新型「Townstar」は、「トレーラースウェイコントロール」、「インテリジェントエマージェンシーブレーキ（歩行者・自転車検知、ジャンクションアシスト付き[1]）」、「プロパイロットパーキング」（EVモデルのみ）、「インテリジェントクルーズコントロール」（ガソリン車のみ）、「プロパイロット」（EVモデルのみ）を搭載するなど、安全装備と先進運転支援機能を20種類以上、搭載しています。

また、全ラインナップにApple CarPlayやAndroid Auto、ワイヤレス充電などの便利なコネクテッド技術を搭載し、EVモデルには、さらなるコネクテッドサービスを導入する予定です。

シーンに合わせたビジネスソリューション

新型「Townstar」は高い信頼性を確保しており、快適で効率的なビジネスパートナーとして、多彩な用途での利用が可能です。最大3.9平方メートルの荷室スペースと可動式のパーティションを備え、木製パレット（ユーロパレット）2つと、800kgの荷物を容易に運ぶことができます。また、最大で1,500kgの牽引能力を備え（パワートレインによる）、荷室スペースには、荷降ろしを容易にする大型のスライドドアや、オフィスツールを収納する専用スペースも設定するなど、充実した仕様装備で様々なビジネスニーズにお応えします。

[1]インテリジェントエマージェンシーブレーキ（歩行者・自転車検知、ジャンクションアシスト機能付き）は、対向車線を横切って曲がるときや、歩行者が道路を横断しているとき（道路の向こう側）に、対向車・横断者との衝突回避・衝突による被害軽減を支援する技術です。必要に応じて緊急ブレーキをかけ、衝突を回避する操作を促します。

以 上